

姉妹都市・米国 ロングビーチ市

姉妹都市プロフィール

アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ロングビーチ市

○提携年月日 昭和38(1963)年10月7日

○人口 約45万人

○面積 131.3 km²

○年間平均日照日数 345日

○市長 レックス・リチャードソン (Rex Richardson) 氏 (1期目：2022年12月～任期4年)

○市制施行日 1888年2月10日

○市の概要

ロサンゼルス市の南に位置し、太平洋に面して9kmに及ぶ長い砂浜を有する、カリフォルニア州第7の都市である(人口規模)。ウォーターフロント立地を生かした美しい街並みを持つ観光都市であり、クイーンメリー号やロングビーチ太平洋水族館、ロングビーチグランプリなどの豊かな観光資源と温暖な気候に恵まれていることから、毎年多くの人が訪れる(年間約600万人)。

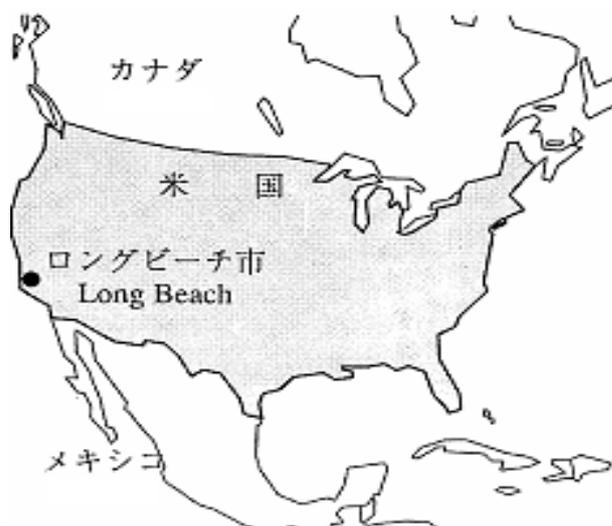


また、過去に油田が発見され、石油精製などの工業都市としても発展し、その後、航空機製造などをはじめとする重工業産業が市の代表的な産業となり、今日では、全米有数のコンテナ取扱量を誇る港を擁する港湾都市でもある。

提携に至る経緯

昭和32年頃から(昭和30年に長崎市とセントポール市が初の姉妹都市提携締結)国際化に向けた気運が市民間で高まり、当時の吉田勝太郎市長がアメリカ文化センターと連絡を取り合ったのがきっかけとなった。

人口30~40万の都市で、港中心の商工業都市、そして太平洋岸の都市であることの3点に重点を置き、提携に関する調査研究を進めた結果、ロングビーチ市とは互いに太平洋を挟んで港を有し外航船により結ばれていること、石油化学中心の工業都市であり、既に提携している名古屋市とロサンゼルス市に対する相互の位置関係が類似、ロングビーチ市の周囲に北勢地域出身者が多く移住しているなどの点で親しみがもてる等の理由で提携を進めるに至った。



これまでの主な交流

① 交換学生・教師(トリオ)の相互派遣

昭和 40 年から隔年相互に高校生 2 人と教師 1 人を夏期約 3 週間派遣し、一般家庭でホームステイを行いながら、市民との交流を行う。

② 英語指導員(Yokkaichi English Fellows)招請

昭和 61 年から毎年、ロングビーチ市から指導員を受け入れ、市内中学校での英語指導をはじめ、小学校や幼稚園で国際理解教育の推進にあたる。

③ 医療交流

平成 14 年から市立病院の医師を 1～2 週間派遣、ロングビーチ市にあるセント・メリー病院とメモリアル病院にて視察研修を行う。

④ 大学交流

昭和 63 年に四日市大学とカリフォルニア州立大学ロングビーチ校が学術交流協定締結。夏期に学生を派遣し、語学研修等を行う。平成 20 年度には、四日市医療看護大学の学生が 3 週間、同州立大学で語学や医療制度を学ぶ研修が新しく開始された。

令和 7 年に、ロングビーチシティカレッジの学生及び教職員が四日市大学の学生と交流をしたほか、市内公立中学校を訪問し授業に参加した。

⑤ 地球環境塾(学生環境サミット)

平成 20 年に四日市市制 111 周年記念の一環として初めて開催。夏期に約 1 週間、姉妹・友好都市から学生を招いて、本市の学生とともに地球環境問題について意見交換し、相互理解を深める。

⑥ その他周年・交流事業

姉妹都市提携 60 周年(2023 年): 8 月に、四日市市長・市議会議長をはじめとする公式訪問団一行がロングビーチ市を訪れ、市長表敬訪問、ヨッカイチフレンドシップガーデン(記念プレート贈呈式)への訪問のほか、60 周年記念式典や市内中学校訪問などを通じて友好交流を深めた。11 月には、ロングビーチ市長・姉妹都市協会長をはじめとする公式訪問団一行が四日市を訪れ、市長表敬訪問、記念遊具設置のセレモニーのほか、B-1 グランプリ、市内中学校や市内企業訪問を通じ市民との交流も行った。

その他

第 9 回(平成 26 年度)自治体国際交流表彰において「総務大臣賞」を受賞

姉妹都市提携以来、教育、文化・スポーツ、医療、環境等の広範な分野において交流事業を実施していることや、ロングビーチ市、友好都市である天津市、四日市市の高校生が環境問題について意見交換を行う地球環境塾など、様々な事業を毎年継続し実施していることが評価され、同賞を受賞した。

